

改善報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度

29年度

市町村名	蕨市				
提案事業名	ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト推進事業				
事業期間	27年度		～	27年度	
成果指標	(成果を検証する指標) 中心市街地における休日の歩行者・自転車の通行量				
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C
	従前値 (24年11月時点)	41,980人	目標値 (28年11月時点)	42,897人	実績値 (28年11月時点) 40,969人
	(施設建設等の場合の実績)				
年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	

【改善計画(報告)】

①成果指標の再設定

事業・方策名	ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト推進事業				
成果指標の再設定	(成果を検証する指標) JR蕨駅東口で開催される「あさがお&ほおずき市」と西口で開催される「わらてつまつり」の合計来客数				
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	A
	現状値 (28年4月時点)	33,500人	目標値 (29年4月時点)	38,500人	実績値 (29年4月時点) 38,000人
	(施設建設等の場合の実績)				
年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	

②再設定指標を達成するための事業・方策内容

事業・方策内容	
①	蕨らしさ(歴史、ストーリー性など)を有したものを審査し、品質も含め一定基準を満たしたものを蕨ブランドとして認定する「蕨ブランド認定」制度を平成28年度から実施する。認定品を推奨することにより、蕨ブランドの普及と品質の向上を促進し、地域産業の振興を図っていくとともに、蕨ブランドの発信を通じて市のPRへつなげ、まちのにぎわいを創出する。
②	引き続き、地域資源を活かしたにぎわいづくりや、蕨ゆかりの人材を活かしたまちづくりの推進、芸術・文化活動の活性化を図る「ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト」を着実に推進し、まちのにぎわいを創出する。
③	平成27年度に制定した協働のシンボルマーク及びキャッチフレーズを活用するとともに、市民と行政が一緒になって学ぶ合同の研修を行う等、協働に対する理解を促進し、市民と行政との協働によるにぎわいあるまちづくりを推進する。

③事業・方策の実施効果

実施効果の概要	
①	蕨らしさを有した優れた商品を審査し、蕨ブランドとして認定する、蕨ブランド認定制度を実施。わらびりんごサイダーなど市内5事業者・5件を蕨ブランドとして認定した。平成29年2月にイトーヨーカドー錦町店でお披露目を開催したほか、蕨市消費生活展で展示・即売を行うなど蕨ブランドの普及と発信を通じて、地域産業の振興や市のPRができたことでまちのにぎわいの創出につながったと考えられる。
②	わらびりんごや双子織、成人式発祥の地といったまちの魅力を新聞などを通してPRしたほか、新たに蕨市PR大使に就任した将棋女流棋士の中井広恵さんから情報の発信や音楽によるまちづくり推進事業を実施、広報蕨の28年6月号からは、連携協定を締結している河鍋暁斎記念美術館との協働で美術館作品の紹介記事の連載を開始し、地域資源を活かしたまちのにぎわいの創出につながったと考えられる。

③

協働推進月間において「市民と職員の協働研修」を実施することで、協働に対する理解を促進し、市民と行政の協働によるまちづくりの意識が醸成できた。また、蕨市協働事業提案制度により平成28年度は5事業が採択され、その中の「わらてつまつり」ではミニ新幹線試乗やNゲージの運転体験などの各種イベントが行われ、2日間で約8,000人が訪れ、まちのにぎわい創出につながったと考えられる。

④特記事項

●再設定指標について

【未達成となった指標を用いなかった理由】

・中心市街地における休日の歩行者数・自転車の通行量

天候など不確定要素に大きく左右されるため。また、大規模小売店の閉店の影響により、従前値以上の通行量を見込むことが困難なため。

【今回使用する指標について】

・市の玄関口であるJR蕨駅東口・西口の近くで開催される2つの祭りの来客数を比較することで、まちのにぎわいに対する成果を確認する。

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・既を実施した成果検証報告書(別紙3)の内容を転記すること。

【改善計画(報告)】

・改善計画書として提出する際には、①成果指標の再設定(実績値、達成度等を除く)、②再設定指標を達成するための事業・方策等を記入すること。

・改善報告書として提出する際には、①成果指標の再設定(実績値、達成度等を記入)、③事業・方策等の事業効果、④特記事項を記入すること